

## とうきょうとすくわくプログラム活動報告書

園名	暁愛児園
クラス	ひまわりぐみ（3、4歳児）10名
日時	令和6年7月

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

しぜん（砂、土あそび）

<テーマの設定理由>※子どもの姿

どろんこあそび前に導入で読み聞かせをした「どろだんご」の絵本に興味をもち、絵本のなかでやっているようなダンゴを砂で作ったら硬くなるのか、坂を転がすことができるかを試してみたいという子ども達の思いから活動に取り組んだ。

### 2. 活動スケジュール

- ・絵本の読み聞かせをする
- ・公園の砂場でだんごを作る
- ・公園の滑り台を利用して転がしてみる

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具


- ・空きペットボトル（水を運ぶため）

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

・近隣の公園の砂場を利用し、水で湿らせた砂で砂ダンゴを作る。保育士が見本をみせると、各々でダンゴを作り始めたが思うよう固まらず友だち同士でどうやったら出来るか相談しながら握る。「硬くなったよ。落としても壊れないかな」と、作ったダンゴを落としたり、転がし壊れてしまい、砂じゃなかったら出来るのかな？という声があがる。

<活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿（声・子ども同士や保育者との関わり）>	写真
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士「キュキュッとすると固まってくるよ。コロコロするとまるくなるね」</li> <li>・子ども「かたまらないよ」「崩れちゃう」「もっとお水かけた方がいいんじゃない？」「両手でコロコロすると硬くなってきたよ」「あっ！サラサラの砂をかければいいんじゃない？」「こっちの砂サラサラだよ」「硬くなってきた！」「握っても壊れなくなったよ」</li> <li>・保育士「握っても壊れないね。転がしてみる？」</li> <li>・子ども「転がるかな」「硬いから壊れないよ」「壊れちゃうと思うよ」「やってみようよ」→滑り台を転がしてみる</li> <li>「あー壊れちゃった」「もっと硬いのつくりたい！」「光らないしね」「保育園の砂だったらできる？」</li> <li>・保育士「絵本では土で作ってたみたいだよ」</li> <li>・子ども「つぎやってみたい！！」</li> </ul>	

### 5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・どろんこ遊びで泥ダンゴに興味を持っていた子ども達。導入で読み聞かせをしたことで硬いダンゴづくり、転がす、落としてみるなど興味をもつ。やり始めると丸く成形することが思うようにできない子もいる。3歳児は手のひらを使って転がす、指先の力の入れ方など一緒に行いながら考えた。
- ・4歳児は形になってくると友だち同士で声をかけあい、サラサラの砂はこの場所の物を使うと硬くなるか、崩れそうになったら水をつけるといいかもしれないと子ども達の発想で工夫して考えて進めることを経験できたことが良かった。

## とうきょうとすくわくプログラム活動報告書

園名	暁愛児園
クラス	ひまわりぐみ（3, 4歳児）10名
日時	令和6年8月

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

しぜん（砂、土あそび）

※水分量の違う砂で硬いお団子はできるのか

<テーマの設定理由>※子どもの姿

前回の砂ダンゴづくりで思うような硬さのダンゴにならなかったので園庭の砂ではできるのか？水の量でダンゴの硬さは変わるのか？という子ども達の気づきから取り組むことにした。

### 2. 活動スケジュール

- ・泥ダンゴづくりの経験のある保育士から作り方の話を聞く
- ・ダンゴの作り方を再度確認（ポスター利用）
- ・タライに園庭砂場の砂を集めタライごとに水分量を変えて泥ダンゴを作る

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具


- ・タライ ・バケツ ・お皿
- ・どろだんごポスター ・玩具（ふるい）

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

園庭の砂場を利用し、タライを2つ準備し水分量を変えて挑戦する。子どもと一緒に水の量を相談しながら多め、少なめの2種類の砂を準備。「どっちが硬いお団子になるかな？」の投げかけに「水がたくさんだと柔らかいから硬くならないかな？」との声に「白砂かければいいんじゃない？」と新たな声があがり、ふるいを使ってサラ砂集めが始まった。

### <活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿（声・子ども同士や保育者との関わり）>	写真
<p>・朝の会でどろダンゴづくり名人の保育士に光るどろだんごの作り方をレクチャーしてもらい挑戦。水分量でもだんごの完成度が変わってくると学んだ子ども達は園庭の砂を使って再度チャレンジしたいと声があがる</p> <p>・タライに入れた砂には、タライごとに水の分量をかえてみた。</p> <p>・硬いだんご、光るどろだんごを目指して、作り方も掲示すると4歳児は見ながらやってみようとしていた</p> <p>・子ども 「砂がたくさん濡れてる方が、固まるよ」 「ペチャペチャはまるにならない」 「乾いてくると崩れてきちゃう」</p> <p>・保育士が泥ダンゴキットを提案。4歳児数名が挑戦。</p> <p>子ども ・土で挑戦している友だちをみて 「あっちの方が硬くなってる！やってみよう」</p>	 <p>こちらはキットを使って土で挑戦！</p>

### 5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気付き>

・前回の公園での砂ダンゴづくりを経験したことで、どうやったら硬いダンゴができるかの探求心と作りたい意欲が増している。4歳児はどうやったら出来るのかを友だちと相談して達成していく姿を楽しみ、もっとやってみようという思いが見られる。保育士が見せてくれた光る泥ダンゴにも関心を示し、砂で出来るのか？土って何？と声上がる。この活動の中で子どもそれぞれの向き合い方、根気強さ、うまうまかかったらどうする？という考える力が養われたように感じる。光る泥ダンゴ作成に繋げていきたい。

## とうきょうとすくわくプログラム活動報告書

園名	暁愛児園
クラス	ひまわりぐみ（3、4歳児）10名
日時	令和6年9月

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

しぜん（砂、土遊び）

※土を使ってチャレンジ！どろだんごできるかな？

<テーマの設定理由>※子どもの姿

前回の水分量を変えて砂だんごづくりを経て、土で泥だんごを作りたいという子どものつぶやきから取り組むことにした。

### 2. 活動スケジュール

- ・黒土をふるったもの、白砂を集める
- ・5人×2グループで参加
- ・タライに黒土、水を入れ感触を楽しみ泥だんごの成形

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具


- ・鹿沼黒土
- ・タライ
- ・玩具（バケツ、プラスチック皿）

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

・園庭の砂場で行う。黒土での初めての挑戦。砂とは違う感触に「丸くなりやすい」などの声があがる。子どもたちの手でも丸く成形しやすく力の入れ加減に戸惑っている3歳児に4歳児が見本を見せながら「こうやってコロコロすると丸になるよ」「硬くなってきた」「白砂つけたらどうなるかな？」と声があがり自分たちで工夫しながら形にしていこうと楽しむ姿が見られた。

### <活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿（声・子ども同士や保育者との関わり）>	写真
<p>「鹿沼黒土」という泥だんごに適しているといわれる粘土質の土を準備し、どろだんご作りに挑戦。</p> <p>砂と違って、力加減が難しく丸く成形していくのに苦労していたが、やっていくうちに手が慣れて丸くなってきた。</p> <p>保育士「お砂で作ったときと違ったりする？」と質問。</p> <p>子ども</p> <p>「まるにならないよ」</p> <p>「砂はざらざらだけど、これはツルツルしてるね」</p> <p>「サラサラの砂、たくさんつけるとヒビがはいっちゃった」</p> <p>「お水つけたらツルツルになったよ！」</p>	

### 5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気付き>

・砂とは違う感触や柔らかさに気づき、最初は各々で黙々と行っていたのが、時間が経過すると形になり始めた子が思うように形にできない友達に対して教えたり、年下の友達に見本を見せながら教える姿もみられた。保育士が見守ることで自分たちで考えて工夫してみようという姿が見られた。丸く成型することで指先や掌の力加減など、日常ではあまり意識をしない手の動きをする活動を行ったことで、各々の得意、不得意がみられた。また、集中して一つのことを行うよい経験ができたと思う。

## とうきょうとすくわくプログラム活動報告書

園名	暁愛児園
クラス	ひまわり組（3. 4歳児）10名
日時	令和6年12月～令和7年3月

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

しぜん（砂、土遊び）

※光るどろだんごをつくるぞ！！

<テーマの設定理由>※子どもの姿

9月に行った泥だんごづくりが、行事が多かった時期もあり磨いて光らせるまでの達成ができなかったため「光るどろだんご」を作ってみようという子どもたちの希望から取り組もうと思った。

### 2. 活動スケジュール

- ・黒土、園庭の白砂、海の砂をふるいでこしてサラ砂の準備
- ・黒土を使って泥だんごの成形 ・布を使って磨いて光らせる

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

- ・鹿沼黒土 ・海の砂 ・ウレタンベンチ ・玩具（ふるい）
- ・ブルーシート ・イス ・皿 ・ピン ・タライ ・フェルト

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

園庭で実施。どろだんご名人の保育士にレクチャーを受けどう作ると硬くて強い、そして光る泥団子の作り方を教えてもらい作り出す。今回はサラ砂を作ることからはじめ3種類のサラ砂を準備。泥団子にヒビが入ったら水をつけて砂をつけるとひびが閉じるなど経験したことを生かしながら行う姿も見られた。数日乾燥させフェルト、ナイロン素材の布を使って磨く作業を連日続けた。こすっていると割れてしまう子もあり、再度黒土を成形して挑戦した。週末は家庭に持ち帰り磨くなど、家庭にも協力してもらい継続して行う力を身につけた。

### <活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿（声・子ども同士や保育者との関わり）>	写真
<p>「先生～光るどろだんごできなかつたね」の声から再度チャレンジを決意。今回は、土や砂を越してサラ砂づくりからスタートした。</p> <p>サラ砂づくり</p> <p>保育士「砂と土の触った感じは違う？」の問いかけに子ども「さわると気持ちいい」「すべすべだよ」</p> <p>「砂触ると冷たい。あっ！土はちょっとあったかいよ！」</p> <p>どろだんご名人の保育士と一緒に光るどろだんごを目指して挑戦した。手のひら、指先を使ってお団子をコロコロし、サラ砂をつけてコロコロの手順を教わると早速やり始める。</p> <p>保育士「この作業を繰り返し100回はした方がいいだよ」</p> <p>子ども「100回できるかな」「つぎは絶対に光るどろだんごにする！」「ギュって握った方が硬くなるよ」</p> <p>「ヒビが入ったら水付けなければいいんだよね」</p> <p>保育士「水つけたら粘土やるときみたいに、ヒビのところを伸ばしてすく砂をつけるんだよ」</p> <p>子ども「あっ本当だ！ヒビなくなった！かたくなってきたよ」</p> <p>「先生！いつどろだんご磨く？」連日、4歳児から声が上</p> <p>お散歩から帰ってきて、園庭に行き磨くのが日課になった。日々の活動によって毎日磨くことが続けられない日もあるが、コツコツ積み上げることで仕上がっていく様子を楽しみにしていた。</p> <p>園ではフェルトを準備し、家庭からナイロン素材の布をご用意いただき、どの布だと光りやすいかを研究した。</p> <p>子ども「あっ！ギュってやったら壊れちゃった」壊れただんごの断面をみて「なかに穴があいてるから壊れちゃったのかな」</p>	

### 5. 振り返り

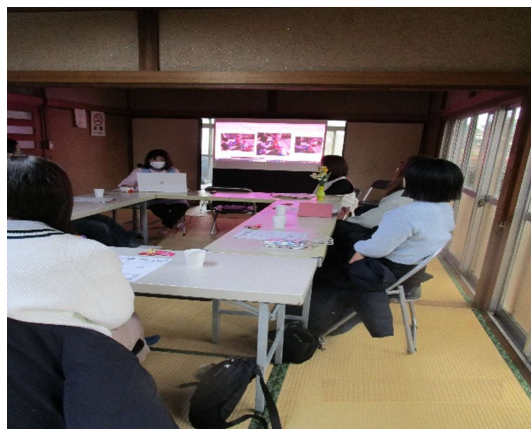
<振り返りによって得た保育士の気づき>

半年をかけて砂だんごから土のだんご、そして光るどろだんごづくりと継続して行ったが、砂、土と触れ合う、感触を楽しむ、性質を知って工夫してみるなどの学びができた。またそれだけでなく、達成感、繰り返し継続して行う力、友だちと相談しながらやりとりを楽しむ、家族の方にも協力してもらうことで力を合わせてやり遂げる素晴らしさを学ぶことができたように思う。

この活動を通して、個人差はあるがどの子にも頑張る力があることを改めて再認識できた。

## 令和7年3月 報告会

保護者会にて活動内容をご覧いただき探究活動のプロセスを共有しました。



子ども達の声や動画を流すことで保護者の方も興味を持って報告を聞いてくださったように思います。  
子ども達の新たな一面に気づき、子どもたち自身による探究活動に着目する「すくわくプログラム」を応援していただく良い機会となりました。